

2012年10月 コラム



おかだ いと

2012/10/1(月)

台風が過ぎ去ったが、まだ風雨は残っている。川の水はにごり、増水している。被害も多く出た。日本有数の清流、穴吹川も増水し、にごっていた。穴吹川のほとりにある温泉へ出掛けた。朝一番に入ったので入浴客も少ない。低料金と町唯一の露天風呂を備えた温泉とあって人気が大変ある。中にはサウナ、ジャグジー風呂、打たせ湯、足風呂、色付き風呂とあり、そして露天風呂がある。小さいが、風呂から見える山の景色は絶景だ。季節ごとの山の景色を楽しめる。今回は湯治も兼ねて温泉に来た。先日の腸の内視鏡検査結果も悪くなく、安心した。検査をするにあたって、人の心遣いというものをつくづく実感した。心配してくれる人、たいしたことがないと思う人、こんな時に人の本心というものが感じられた。検査という本人にとっては運命を感じる時に、いかに周囲の人のサポートが必要であるかを実感することができた。そんな意味で今回の検査は得るものがあった。

2012/10/2 (火)

十月に入り、気温も下がってきた。温かい飲み物が欲しくなる季節だ。私は無類のコーヒー好きである。カフェイン中毒といっても過言ではない。これは母からの影響もあるようだ。夏のアイスコーヒーは、お茶代わりに沢山飲むので節約のため豆から作っている。冬はもっぱらインスタントである。特別にコーヒーを楽しみたい時には、一杯から入れることのできるドリップ式を使う。エスプレッソは特に好きだ。手の先までカフェインが染みわたる様な気がする。少しずつ飲みながら読書をするのが、最高の時間だ。夜は眠れなくなるので、コーヒーを控えるようにするが、コーヒー好きにとっては、秋の夜長にホットコーヒーを楽しむのは、いい時間を過ごせるだろう。先日、検査のために、朝からコーヒーを飲めない日があったが、検査より耐えがたいものがあった。そのくらい私にとってコーヒーは大好きである。これからもずっと、手放せない飲み物になっていくだろう。

2012/10/3(水)

私は文筆の練習のために、毎日、新聞のコラム欄を書き写している。今日の内容は「宗教や民族の違いを越えた、人と文化への深い愛情」について書かれていた。とても胸が打たれ、心が熱くなった。戦争の歴史は有史以前からある。宗教や民族の違いから、戦争がこの世からなくなることはないかもしれない。しかし、戦争が原因で文化の交流が危機にさらされることもある。芸術が原因で戦争が起こったことはないように思う。言葉が違って、芸術はお互いを理解することが出来る。戦争によって文化交流が危うくなっても、今の時代にはインターネットがある。2012年10月1日から、改正著作権法が施行された。これは著作権を守るための法律であるが、インターネットで見られない映像も増えた。芸術の締め出しではないだろうか。古い芸術には著作権はなく、世界中の人が楽しめる。芸術に携わるものとして、今回の法律は果たして世界を救うものになるのだろうか。

2012/10/4(木)

やはり、散歩はいいものだ。季節の移ろいを五感で触れることができる。私は音楽が好きなので、散歩の時も携帯音楽端末を聴きながら、歩いていた。だが、今日は持っていくのを忘れた。最初はつまらないと感じた。やがて、季節の音を感じ始めた。田んぼに植わった稲にたむろするすずめのさえずり、稲刈りの音、風にたなびくコスモスの葉の音。私は俳句を書く。これらの自然の音を聴くことによって、幾つか句が思い浮かんだ。忘れないようにと、すぐにメモを取る。インターネットの俳句の会に所属して投句しているが、諸先輩たちにはなかなか及ばない。しかし、自分の感性で書いた句は、自分にとって最高の出来である。見たまま、感じたまま、ありのままを句にする。短い五七五の文の中に想いを込める。季語を入れなければならないので、難しいように思える。一見、複雑そうだが単純で奥深いと思えるように感じる。今日は携帯音楽端末を忘れてよかったと思えた。

2012/10/5(金)

昨夜は遅くまで、ネットサーフィンをしてしまった。私の住む地域ではラジオが入らない。だから、ネットラジオに頼っている。今は二十四時間、インターネットを通じて、世界中のラジオ局が聴けるようになっている。私は夜になるとパソコンを開いたままにしている。ネットラジオを聴くためだ。昼間はMP3で音楽を楽しんでいる。特にジャズが好きである。アメリカのジャズ専門局で、ラジオを聴きながら、パソコンでも作業できるチャンネルがあり愛聴している。そのサイトでは無料で一日一曲、MP3にダウンロードが出来るようになっている。昨夜はそれを試してみた。すると、別のサイトに飛び、そこで登録すれば、ダウンロードできるという仕組みになっていた。つたない英語の読解力で早速登録し、ダウンロードに成功した。そのサイトも、もちろん無料である。この田舎町から世界に繋がった気がした。秋の夜長とは言うが、熱中し少々寝不足気味になりそうだ。

2012/10/6 (土)

私が毎週土曜の深夜に楽しみにしているのは、NHKFMの「ジャズ・トゥナイト」だ。著名なジャズ評論家児山紀芳さんが、とても優しい口調で司会している。外国の方がゲストで来た際には流暢な英語で話される。私はラジオを聴きながら、手作りカクテルも飲む。それが、一週間頑張って生き抜いた私へのごほうびだ。毎月一回「ジャズ・クラブ巡り」という特集がある。それを一番楽しみにしている。やはりジャズはライブ演奏に聴き応えを感じる。同じ曲でもアーティストによって解釈が違い、ライブでは即興のアレンジを聴くことができる。まさに一期一会だ。番組前半では特集を組み、後半ではリクエストなどをかける。私もリクエストしたら、大好きな曲をかけてもらったことがある。ジャズはとても奥深い。ジャズに関して、まだまだ児山さんに教わることはたくさんある。今夜はパイナッパルジュースのカクテルだ。今夜は何の特集なのか、楽しみで待ち遠しい。

2012/10/7(日)

私は図書館よくを利用する。昨日も行ってきて、たくさん本を借りてきた。私の町の図書館は決して大きくないが、読みたい本はたくさんある。以前、借りてきた本にこう書いてあった。子供向けの本にも大人の読める本がある。大人一人で子供のコーナーに入ると、周囲から変な目で見られるという。私も先日、勇気を出して子供のコーナーに入ってみた。偉人伝、社会の仕組みについてわかりやすく書かれた本、そして、冒険小説などが多数あった。確かに大人でも十分に読み応えのある本が多数ありそうだ。子供の頃、夢中になった本もあり、読み返すと当時の思い出が懐かしくよみがえる。著者は大人にこそ、子供向けの冒険小説を読んでもほしいと書いてあった。子供の頃とは違う観点で読めるそうだ。当時とは違う感動があるらしい。確かに、人の目もあり勇気のいることだが、子供向けのコーナーにもぜひ足を向けてほしいものだ。何か新しい発見があるかもしれない。

2012/10/8 (月)

私が文筆の練習のために新聞のコラム欄を、毎日書き写しているのは先日書いた。今、書き写しているのは家でとっている新聞のものだ。少し気が付いてきたことがある。簡単な言葉でも漢字表記しなかったり、難しい言葉を使ったりする。私の知識不足だろうが、辞書で調べなければならない。それも勉強の一つになるのだが。今はインターネットが発達し、日本各紙のコラム欄が読めるようになった。それ専門のサイトも見つけた。全国紙はその新聞独自の視点で書かれ文章も固いが、地方紙はその地方独自の視点で書かれ、文章も優しく読んでいて楽しい。限られた文字数の中で、コラムを書くのは難しい。しかし、慣れてくると、言葉のパズルを並べているようで楽しい。コラムを書き写しているのも、書き方を学び、時事問題を知る上での勉強になる。今後の目標としては、時事問題や季節の話題を取り上げたい。文章をわかりやすく書くことができるかも課題になりそうだ。

2012/10/9 (火)

午前中のさわやかな季節である。家事を一気に済ませてから、文筆活動に入る。まず、コーヒーを準備する。そして、前もって選んでおいたネタの中から、このコラムを書く。次に新聞のコラムを書き写し、音読する。気分がのっていれば、小説も書く。だいたいこれで、午前中が終わってしまう。生活のリズムの違う人もいるだろう。しかし、午前中に作業すれば能率が上がると、今まで読んだ本に多数書かれていた。それと、自分の中で作業の締め切り日を作ること。集中力が高まるらしい。毎日、規則正しい生活をしていけばやれないことはない。私もおよその時間割を作り、実践している。そうすると、効率よく作業が進む。そして、一時間の中に休憩時間を取り入れることも、効果があるそうだ。いろいろな本を読み、考え方を参考にする。その中で得た知識を、自分の中で消化し実践することで、文筆力を身につける。私も午前中の貴重な時間を、有意義に使いたいものだ。

2012/10/10 (水)

昨日、県の障害者交流プラザで、音訳奉仕員養成講習会の開講式に行ってきた。音訳ボランティアを始めるためだ。きっかけは文筆活動を通じて、文字の大切さを知ったからだ。そして、視覚障害者の方にも、文字情報を伝えたいと思った。会場には男女合わせて、十五人の受講生が集まった。これから三ヶ月間、共に勉強していく人達だ。今回は県の障害福祉課の方が来られて、「身体障害者福祉行政の概要」について受講した。資料に沿って、視覚障害者だけでなく他の障害者の説明もされた。その後、施設の見学をした。録音スタジオでは、ボランティアの方がいらして、下調べという作業をされていた。そういった方や施設を見て、ますますボランティアとしての活動意欲がわいてきた。テキストをもらい、毎週一回の講習会が始まっていく。私はこれからも、毎日、コラムの音読、文筆活動を通じて勉強していきたい。そして、少しでも視覚障害者の方に役立てればと思う。

2012/10/11(木)

先日、いろんなフレーバーのハーブティーをお土産にいただいた。私がコーヒーの次に好きな飲み物だ。夕食後は、ハーブティーをゆっくり飲むのを習慣としている。肌寒くなってきたらいいが、夏に温かい飲み物を飲むのは苦手である。しかし、夏に温かい飲み物を飲むのは、体にとっていいらしい。ハーブティーといっても、いろいろなフレーバーがある。私が特に気に入っているのは、カモミール、ローズヒップティーなどである。体調が悪い時は、ミントティーを飲むとさっぱりする。中国茶も同じようである。中国茶はまだ勉強不足である。今後、勉強していきたい。いずれにしても、冷やして飲むより、温かくして飲むのが、体にいいようだ。古人は医学が発達していなくても、自然と体にいいものを体験し、わかっていたようだ。私も体調が悪い時は、意識的にこれらを飲むようにしている。温かい飲み物は心と体に優しいので、これからも毎日飲み続けていきたい。

2012/10/12(金)

文章を書くにあたって、推敲を重ねるのは重要なことである。特に三回以上は必要だ。そして、原稿を寝かせて、改めて推敲するとさらによいらしい。私のパソコンにはワードが入っていなかった。コラムや小説を書く上で、ワードの必要性を感じ購入した。なるほど、使ってみると簡単に推敲出来る。古いワードは使いこなせたが、新しいワードは最初使い慣れるまで時間がかかった。もともとパソコン自体が得意ではない。四苦八苦して、原稿を打ち出してみると、案外使えるようになっていた。以前、教えてもらったようにショートカットキーまで出せるようになっていた。何でもチャレンジするという気持ちが大切だ。このコラムを書くにあたり、前日から書き上げた原稿を、一晩寝かして推敲するということにチャレンジしたい。入力、印刷は出来るようになったので、あとは文章を考えて書くだけだ。準備を念入りにする。そして、推敲を重ね、いい文章を書いていきたい。

2012/10/13(土)

先日ワードを買い、慣れない使い方に困った。ワードの本を求めて書店に行くと、今月末で閉店すると書いていた。以前は町に三軒の書店があったが、次々と潰れていく。残るは一軒となった。不景気の波が押し寄せてきている。規模が小さいので、私の町の書店では欲しい本が手に入りにくい。私はよくインターネットで本を買う。中古本なら格安で手に入る。最近では中身を見ることのできる本も出てきた。あと、図書館もあるので何とかなる。最近では電子書籍というものが流行っている。私も購入を考えている一人だ。新刊本や古い本も手に入るし、無料の本もある。場所も取らず、わざわざ書店に行く必要もない。そういった背景からも書店が減るのだろうか。ただ、特殊な古い本が手に入りづらくなるのと気軽に雑誌を読めなくなるのではないかという不安もある。書店がなくなることはないと思う。書店に電子書籍の端末を置くという話もある。うまく共存出来ればいいのだが。

2012/10/14(日)

証明写真が必要なので写真店にいった。するともう、年賀状のパンフレットが置いてあった。まだ十月である。いや、もう、そういう時期なのだろうか。さらに、スーパーではクリスマスケーキの予約も始まっている。何でも早め早めの予約をさせ、店の売り上げにつなげようとしている。消費が低迷しているさなか、割高な商品を手売りとする姿勢も理解できるのだが。年賀状やクリスマスケーキなども手作りで安く出来るものである。現代人は確かに忙しい。しかし、手間を省くため、お金を多く支払い、既成のものを利用すれば便利という面もある。早めに準備すれば出来ないこともないだろう。時間も作ろうと思えば作れるものではないだろうか。今年は年賀状を手作りしてみるなど、一歩ずつ手作りの幅を広げていくのもいいのではないか。何よりも手作りのものは温かい。受け取る側も、気持ちが伝わり喜ぶだろう。今年から早めに、チャレンジしてみるのもいいだろう。

2012/10/15(月)

先日の「ジャズ・トゥナイト」は「日本のフュージョン」の特番のために休みだった。フュージョンも好きなので、最後まで聴き入ってしまった。私は中学生の頃にハービー・ハンコックの「Rock it」という曲を聴いて、その新鮮さに大変なショックを受けた。その曲が私の音楽の原点である。高校の頃からフュージョンが流行りだし、カシオペアなどに夢中になり、コンサートにも行った。同じくジャズも聴いていたが、ジャズなら何でも聴いていた。その姿勢は今も同じだが、一流のプレイヤーの演奏は心に響く。今回の「日本のフュージョン」でもジャズからフュージョンに発展していった経緯が説明されていた。なぜフュージョンが好きなのか分かった。ジャズ、フュージョン界が切磋琢磨し、新しい音楽を作り出していく。そういったことが楽しく、期待される。音楽は常に私を勇気づけてくれる。どこかの宣伝文句ではないが、「音楽のない人生なんてない」。その通りである。

2012/10/16 (火)

キンモクセイが香る季節である。玄関を出ると、いい香りがする。家を建てた時にキンモクセイを植えようと思っていたが、隣家に立派なキンモクセイが植わっていた。毎年、この季節になると、いい香りがかかせてもらっている。以前、散歩をしている時にもキンモクセイの香りが古民家から漂ってきた。オレンジ色の小さな花から甘い香りがする。もう一つ好きな香りがする木は蠟梅である。梅と書くが、梅科の植物ではない。この木は私の家に植わっている。正月あたりに咲く花で黄色い花を咲かせる。この花も甘い香りがする。こういった好きな香りをかぐと心が落ち着いてくる。アロマ効果というものだろうか。私はアロマも好きである。特にラベンダーとイランイランの香りが好きだ。毎晩、アロマポットにオイルと垂らして芳香浴をする。おかげで、リラックスしてよく眠れるようになった。香りは心を安らいでくれる、とてもいい効果があるようだ。今日も香りが漂う。

2012/10/17(水)

音訳ボランティアの講習会に行ってきた。「視覚障害者との接し方」だ。実際に視界の悪いメガネやアイマスクをつけて実技した。視界の悪いメガネでは迷路をしてみた。簡単な迷路だが、焦点が合わず、顔をあちこち向けて解いていった。次にアイマスクをして、全員が黙り時間を計ってみた。音しか聞こえない。聴覚だけが頼りだ。実際には30秒だったが、それ以上の時間に感じた。目の見えない世界がこんなに不安で、怖い世界だとは思わなかった。次にアイマスクをして、対面朗読をした。ホテルの紹介をする雑誌を担当した。写真をどう説明するかで、言葉が詰まる。読めない漢字で詰まる。まだまだ勉強不足だ。だが、相手の方にお世辞でも「優しい声ですね。」の一言に救われた。最後に部屋の後ろから自分の座る席まで、誘導された。途中、机の脚につまずいた。細やかな声掛けが大変重要だ。相手の立場にならなければわからないことがたくさんあることを実感した。

先日の音訳ボランティアの講習会で学んだことがたくさんある。視覚障害者といえば、全盲の方だけと
思っていた。しかし、視界の中央、あるいは半分しか見えないといった方もいることを知った。そして、す
べての人が点字を知っている訳ではなく、途中で見えなくなった方は聞くことだけで生活している人がほ
とんどだそうだ。災害時などは特に音だけが頼りだ。だから、災害時や街中で困っている方がいたら声掛
けをしてほしい。実習で感じたことだが、説明する時には、具体的で言葉が多いくらいに説明したほう
がいい。街中で困っていて「わかります。」と答えた方にはそれ以上、言わないことが大切だとも教わった。
案内する時は肘を絡ませるなど体を密着することで安心感を得られる。私達が普通に見えていることを当
たり前のように感じ、接しても、当の障害者の方にとってはわからないことがたくさんある。細やかで、相
手の立場に立った気配りのできる配慮が必要だ。

新聞のコラム欄に、パキスタンの武装勢力が十四歳の少女を狙い撃ちにしたという記事が載っていた。その少女は女子教育を認めない武装勢力に屈せず、ブログに自身の気持ちを記していたそう。彼女の命は予断を許さぬ状態だという。コラムの最後に、武装勢力に対する怒りについて書かれていた。そこには「何万倍もの怒りが彼らを撃つだろう。」とあったが、私はその表現はどうかと思う。「目には目を、歯には歯を」ということわざがある。たとえ、怒りであっても彼らを「撃つだろう」というのは、私にとって嫌な表現である。確かに怒りの念はある。彼女の回復を祈る記述もあったが、それが一番ではないだろうか。例え、言葉であっても怒りが彼らを「撃つだろう」という表現は戦争を思い起こされる言葉である。武力行使は許されないことだ。だからと言って同じように武力行使を思わせるような表現はいけないことだと思う。私はただ、彼女の回復を願うばかりである。

2012/10/20(土)

朝晩がかなり冷え込んできた。霜降まであと、三日である。霜降は旧暦で秋の季の最後の日だ。文字通り霜の降る頃である。庭の朝顔もすっかり枯れ果てた。去年は数本だった苗から種を取り、今年はたくさん植えた。今年はさらに多くの花が咲き、またたくさんの種が取れた。来年はいくつ植えようか。夏には、淡い水色の花が目を和ませてくれた。衣替えの季節はとっくに過ぎ、遅くなったが、昨夜は冬の布団を出した。おかげでよく眠れた。朝も目覚ましではなく、自然と目が覚めた。十分に眠れたので気持ちがいい。何事も自然のありのままがいい。季節も人間にも自然のリズムがあり、それを守っていくのも必要であろう。今は野菜や果物も季節に関係なく出回り、季節感を感じられることが少なくなっている。特に、都会では何かと自然のリズムを忘れることが多い。都会に住む人も休みの日には、外へ出て少しでも自然の変化に気づく必要があるのではないだろうか。

2012/10/21(日)

今夜の月は晃々とした三日月である。ここしばらく快晴の天気が続いているので、夜空にも雲一つない。外に出てみる。ひんやりとした空気が頬を撫でて、気持ちがいい。町の雑音はなく、ただ虫たちの鳴き声が合唱している。私はこんな晩秋の夜が大好きである。晃々と輝く月、ひんやりとした空気、虫の鳴き声、枯れ草の匂い。五感すべてで感じ取ることができる。縁側に腰かけ、温かいジャスミン茶を飲み、優しいジャズピアノの曲をかけてみる。のんびりと時間が過ぎていく。なんて幸せな時間だろうか。こんな時間が永遠に続いてくれたらいいのになと思う。心が落ち着いているからこそ、感じられるものだろう。私は心の病を抱えている。薬なしでは生きていくことができない。生きていくことに虚しさを感じることもある。薬を飲まないで生きていくことができれば、どんなに幸せだろう。何度もそう思った。しかし、こういう自然の安らぎこそが何よりの心の薬になるだろう。

2012/10/22(月)

春といえば、杉の花粉症で有名だ。私は先日から、目のかゆみ、鼻づまり、くしゃみが止まらないなど花粉症のような症状が出てきた。春にも同じような症状が出たことがあった。対処法として、ペパーミントのオイルを垂らしたティッシュをマスクに挟む。すると、ミントの香りが鼻を刺激し、鼻の通りがよくなる。おまけに、マスクからもれてくる香りが目を刺激し、かゆみも治まるので一石二鳥だ。今回も数日、それで我慢してきた。それでもたまたま、病院に行くと秋にも花粉症というものがあるらしい。ヨモギやブタクサなどの雑草類が原因のようだ。目薬と薬をもらった。この薬、よく効くのだが眠気がとてもひどい。朝夕と二回飲むようになっていたが、動けないくらいに眠い。いけないとは思いつつ、朝夕飲むところを寝る前一回に変えてみた。すると、翌日いっぱい効果は続き、今は快適に過ごしている。秋は大好きな季節だが、花粉症があるとは知らず、困ったものだ。

HOYAの音声合成サイトを見てみた。自分で入力した文章を読み上げてくれるデモンストレーションがあった。試しに自分の書いたコラムの一部を入力してみた。「月が晃々(こうこう)としている」というところを(あきらあきら)とか、「~の方(ほう)」を(かた)と読み違えがあった。読み上げる声は人の声にとっても近いが、読み間違えがある。また、単語と単語の間が詰まっていたりもした。交流プラザの職員の方が言っていた。「技術は進歩したが、まだ人には追い付かないところがあります。だから音訳が必要なんです。」と。確かにこういったソフトで、文を入力すれば簡単に読み上げてくれる。しかし、利用者の方は人の読む声が温かく感じるそう。音訳には文章の下調べ、録音、校正が何度も必要なため制作するのに時間がかかる。時間はかかっても、人の声の温かさは伝わってくる。コンピューターも便利ではあるが、人には敵わないものがあるのではないだろうか。

音訳ボランティアの講習会に行ってきた。今回は「音訳ボランティアについて」だ。いつものように実習があり、また新しい発見をした。四人でグループを組み、一人が図形のコピーを持ち、質問は受けず、言葉だけでその図形を表現するというものだ。最初は私の順番で、長方形を六個組み合わせた形を表現する。今、思えば説明不足なところが多々あった。例えば「六個の長方形があります。」だけではなく、「六個の長方形が接点を通じてつながっています。」などと、具体的に説明したらよかった。正解した人は一人だけであった。次に説明した人は私の反省点を含めてセンチや角度まで説明してくれたので、全員がその図形を書けた。私は全盲の方は長さなどをイメージできないと思い、あえて言わなかった。職員の方に聞くと、盲学校で長さや色なども勉強しているそうだ。講習会では実習することで体験し、毎回いろいろなことを学んでいく。次回の講習会が楽しみである。

音訳と朗読がどう違うか、皆さん、ご存じだろうか。私は同じ意味だと思っていた。音訳は聞く人が主体で、情報の伝達、客観的な読み、原文を変えない、目で見るとすべての情報を伝えなければいけない。一方、朗読は、読む人が主体、鑑賞、主観的な読み、原文を変えることがある、文字のみの情報など、大きな違いがある。それぞれ目的が異なっているのだ。私はよく読み聞かせをしているが、それは朗読に入るのだろう。音訳は、書かれている文字、情報を正確に伝える。機械的にならないことも重要だ。「音訳はとても難しいですよ。頑張って勉強してください。」と、私を講習会に紹介してくれた人が言った言葉だ。その時は、意味が分からず朗読をすればいいと思っていたが、勘違いだった。講習を受けて、その人の言っている意味がよくわかった。図表や写真の説明もある。語彙や想像力を増やして、表現力を養っていく。そんな努力も必要である。改めて勉強意欲が増してきた。

2012/10/26(金)

一か月ぶりに散歩に出掛けることができた。風は冷たく、すっかりと景色は変わっていた。田んぼの稲は刈り取られ、流れの速かった側溝の水もなく、枯葉が散っていた。鮮やかな黄色の花を咲かせたセイタカアワダチソウが群生している。子供の頃、あの花の花粉で喘息になるという噂を聞き、全速力で横切った記憶がある。刈り取られた田んぼからは再び青い苗が育ち、小さいながらも稲穂を実らせている。枯れ草からはコオロギたちの鳴き声が聞こえてくる。周囲の山を見渡すと、ところどころ赤い色を目にすることができる。紅葉ももうすぐといったところであろうか。散歩の目的地の神社に着くと枯葉で埋めつくされていた。農家の庭先には、もみ殻が敷かれ、人参やネギなどの野菜が植わっていた。霜対策であろう。田舎に住むと、季節感が肌で伝わってくる。確実に季節は移り変わってきている。次にいつ散歩に行けるかわからないが季節の変化を感じられのかが楽しみである。

ワードを使うようになってから気が付いたことがある。原稿用紙の正しい使い方を知らなかったのだ。学校では句読点が最後のマスにきた時は、同じマス目に書くようにしていた。しかし、ワードでは欄外にはみ出して書かれる。インターネットで原稿用紙の使い方を調べると、「ブラ下がり処理」というのがあるそうだ。ソフトによっては最後のマス目に書かれているのもあるが、一マスとして数えられてしまう。今、使っているワードでは「ブラ下がり処理」をしてくれるので助かる。正しく四百字で書くことができる。先日から書き写している「天声人語」の専用ノートではそれが役に立たない。括弧などを同じマス目に書かないと文がマス目からはみ出してしまうことがある。そういう時は臨機応変に対応する。インターネットのサイトの文字から書き写しているので、実際、新聞ではどう表記されているのか気になるところだ。一度、新聞を購入して調べてみようと思う。

2012/10/28(日)

私はイラストロジックというパズルが好きである。特に「ロジックパラダイス」という雑誌の絵柄は美しく難易度も高くて気に入っている。きっかけは十七年前の入院生活からだった。当時はクロスワードに夢中だったので、このコラムを言葉もパズルのように四百文字で埋めるのが楽しい。その雑誌の中に出てくるロジックをやってみた。最初は説明を読んでみても理解できなかったが、一旦理屈がわかってくると面白いように解けて、美しい絵柄が現れてくる。地味な作業だが、一人で地道にすることが好きな私には向いている。私の好きなパズル誌はとても人気がある。難問集など出ると予約しなければプレミアがついて、二倍の値段でインターネットに売り出される。ロジックの腕前はまだまだ未熟で完成するのは難易度の易しいものだ。たまには難易度の高いものもできる。慎重さと集中力が必要である。しかし、あきらめずに難易度の高いものにも挑戦し続けようと思う。

2012/10/29(月)

「断捨離」をした。一度には無理だったので、部屋ごとに時間を見つけては、片付けをしていった。もう使わないもの、今は使う予定のないものを思い切って捨ててみた。ゴミ袋合計、三十袋ぐらいになった。私は手芸をするので、使う予定もなく買い漁った生地や毛糸、キットなども捨てた。捨てたものの中で服が一番多かった。年齢的に合わないもの、サイズの合わないものなどを思い切って捨てた。おかげで衣装ケースに一季節ごとの服で収まるようになった。この服にかけた金額はいくらぐらいになるだろうか、考えたらため息がつく。本やCDは買い取り専門業者に売り、小遣い程度にはなった。しかし、大変だったのはゴミ出しである。軽く引っ越しゴミくらいにはなり、何回にも分けて出した。家の中がかなりすっきりとした。ものは最低限必要なものだけでいい。今回の「断捨離」でそう実感できた。これからはよく考えてものを買うようにし、ものを増やさないようにしたい。

2012/10/30(火)

私は主にインターネットのサイトで本を買う。先日、久しぶりに書店に行き、ゆっくりと本を見てきた。図書館もよく利用するのだが、書店のずらりと並んだ本を見ると楽しい気分になる。図書館もずらりと並んでいて、もちろん無料である。しかし、書店で本を買うとなると、そういう訳にもいかない。お金を出して買うので、じっくりと中身を吟味して買わなければならない。結局、二冊の本を選んだ。一冊は瀬戸内寂聴さんの本。もう一冊は「ことば選び実用辞典」という辞典だ。この辞典には日常よく使われている動詞を様々な熟語を使って表現している。文を書く上で語彙を深めるためにも役に立ちそうだ。言葉を探す上でも便利だが、眺めているだけでも勉強になり、楽しい。携帯サイズにもよく、音訳の下調べにも役に立ちそうだ。何よりこの内容で安価なのが気に入った。インターネットで特定の必要な本を買うのもいいが、書店でじっくりと本を選ぶのも大切である。

2012/10/31(水)

今日はハロウィーンの日である。私の子供の頃にはなかった習慣だ。いつの間にか、日本に浸透してきている。スーパーに行けば、大きなカボチャの重さ当てクイズ。ハロウィーンの季節限定のお菓子や食品などの商品。町のディスプレイもオレンジと黒の一色になる。実際、アメリカのように近所を訪ねて「トリック・オア・トリート(お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ)」とすることは少ないが、お祭り気分は一緒である。何にでもイベントを導入し、商売にしていこうとする企業側の努力もうかがえる。それに乗ってアメリカの行事を楽しむのもいいと思う。消費も上向く。しかし、日本の昔からの伝統行事は忘れられつつある。もうすぐ訪れる七五三の千歳飴やおせち料理などの売り上げはどうだろうか。千歳飴は神社でもらっても食べずに捨てられるのではないだろうか。新しいイベントに目移りするのもいいが、日本の昔からある伝統行事も忘れてほしくないものである。